

ウトナイ湖通信



No.264

2026年5月号



5月のウトナイ湖は、生きものたちの息吹に満ちた季節です。観察路では、キビタキやクロツグミなど、夏鳥のさえずりが響きます。足元にはキジムシロやマイヅルソウが咲き、移ろう景色を彩ります。

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

5月のイベント情報 ウトナイ湖・春の渡り鳥 DAY 5月5日(火・祝)開催

【春のウトナイ湖で耳をすませて野鳥をさがそう】

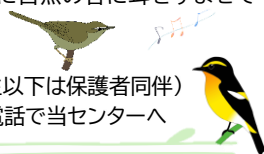
11:00~12:00※事前申込制

春に聞こえる野鳥の声や面白い音をレンジャーがレクチャーします。親子で一緒に自然の音に耳をすませてみよう。

●定員:先着20名

●対象:どなたでも(小学生以下は保護者同伴)

●申込:5月3日(日)まで電話で当センターへ



【ボランティアミニガイド】10:00~16:00

当センターのボランティアガイドが、自然観察路を歩きながら、ウトナイ湖の春の自然をご案内します。

●定員:各回7名程度(所要時間1回約20分)

●対象:どなたでも(小学生以下は保護者同伴)

●申込:道の駅ブースにて随時受付

他にも、渡り鳥の重さ体験クイズやネイチャーフォトラリーも開催予定です。

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

5月10日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。

※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

●定員:10名程度

●対象:どなたでも
(小学生以下は保護者同伴)

●申込:不要。直接当センターへ



レンジャーと一緒に春の生きもの探し

① 5月23日(土)10:30~12:00

② 5月24日(日)10:30~12:00

ウトナイ湖オリジナルの春の生きもの図鑑を持って、レンジャーと生きものを探しに行こう!どんな生きものに出会えるでしょうか。

●定員:先着20名 ●対象:どなたでも(小学生以下は保護者同伴) ●申込:事前申込制。5/1からそれぞれ前日の9:00~17:00まで、電話で当センターへ



事前申込イベントのお知らせ



第1回 野生動物に学ぶ救護セミナー

標本やデータが語る苦小牧の昆虫事情~オオカマキリと水辺の昆虫~
6月6日(土)10:00~12:00

人と野生動物との共生・共存を考えるセミナーです。今回のテーマは、昆虫です。

●定員:先着30名 ●対象:どなたでも(小学生以下は保護者同伴)

●申込:事前申込制。5/1から6/5まで、当センターへ電話または直接来館での申込



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苦小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前9時~午後5時 / 入館無料

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムーくん



~ ウトナイ湖 ~

・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域
・フライング・パートナーシップ

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 検索

傷病鳥獣ルームから

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



トラフズク

右眼の眼球に傷があり、瞳孔の反応もなかった



搬入直後の様子

保護から1か月半ころから、飛翔力が著しく回復してきた



リハビリケージ内での様子

原因：衝突疑い

- 2月14日 市内の道路脇で、カラスに襲われていたところを保護され、当センターへ搬入される。右眼を負傷しており、瞳孔の反射がないため、視力をほぼ失っているものと推測。自発採餌をしなかったため、体重維持のために強制給餌をしながら経過観察。
- 3月2日 保護から約3週間、飛翔リハビリを開始。徐々に飛翔力を取り戻し、保護から約2か月後リリースにいたる。

4月12日

リリース

トラフズク (フクロウ目 フクロウ科)

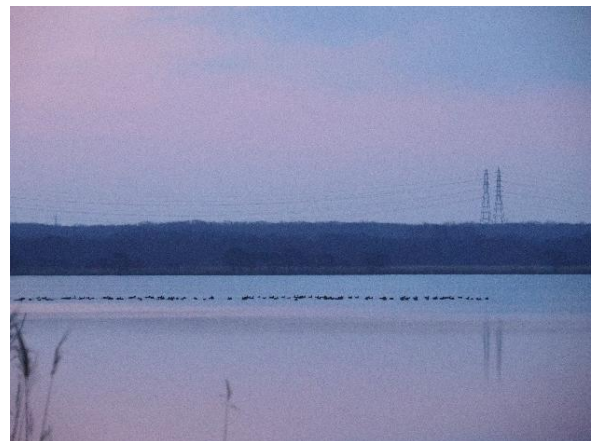
全長38cm、翼を広げると1m近くにもなります。オレンジ色の虹彩と、耳のように見える羽角がよく目立つのも特徴的です。一般的には夏鳥ですが、一部越冬する個体もいます。本個体も2月に保護された個体なので、越冬していたのかもしれませんが、ネズミ類や鳥類を捕食します。

トピックス



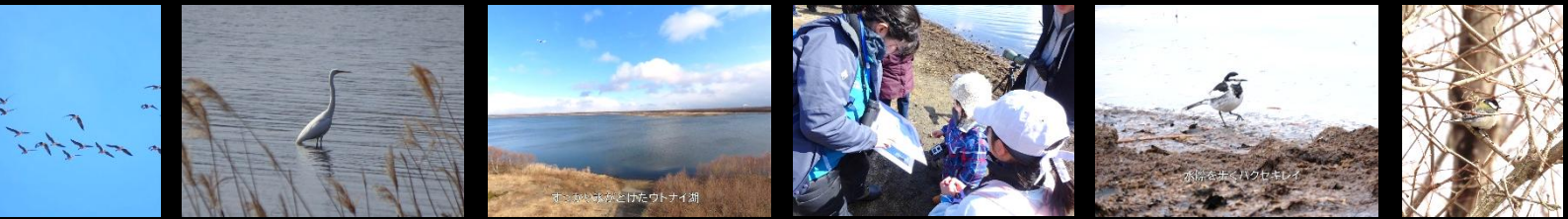
楽しく学べる工作 in ウトナイ湖

今回は、アイロンビーズでハクチョウ類を、毛糸のポンポンでシマエナガを作りました。市内外から多くの方にお越しいただき、JFE リサイクルプラザの方々による牛乳パックでサコッシュ作りも行ない、工作を楽しむ様子が見られました。それぞれ表情の違う、オリジナル作品ができあがりました。



ウトナイ湖ガン類個体数変動調査

渡り時期となる春のウトナイ湖には、マガンをはじめとするガン類の群れが飛来します。夜が明ける前に湖岸で待機し、湖をねぐらとしているガン類のカウント調査を4回実施しました。今季の調査では、最大4,500羽以上を確認することができました。



ボランティアコーナー

3/15に開催した「水辺の渡り鳥ウォッチング」に参加されたやましたさんにインタビューしました。

「水辺の渡り鳥ウォッチング」のボランティアをしようと思った理由はなんですか？

3月はハクチョウ類やカモ類などたくさんの渡り鳥に出合える時期です。色々な種類のカモを見分けることや大きなハクチョウが湖から飛び立つ姿など、ウトナイ湖ならではの風景を参加者の皆さんに知ってもらいたいと思いボランティア活動に参加しました。

活動してみた感想を教えてください。

参加者の皆さんと双眼鏡やスコープで遠くのハクチョウやカモ類の群れ、オジロワシが悠々と飛び姿、ダイサギが魚をとらえる姿を見ることができました。また、青々としたフッキソウやふわふわのバッコヤナギの花穂など、水辺の渡り鳥以外にも、春を感じて楽しんでいただけました。

印象に残ったことがあれば教えてください。

人気者のシマエナガが観察路近くに現れ、枝に飛び移る姿を見せてくれました。参加者の皆さん、特に子どもさんが自分の目で見つけて「可愛い」と喜んで見入っていたのが嬉しかったです。イベント参加をきっかけに、自然に関心を持つ仲間がどんどん増えることを願っています。



水辺の野鳥を探
やましたさん

ウトナイ湖 お楽しみコーナー

ウトナイ湖 野鳥グッズを作ろう

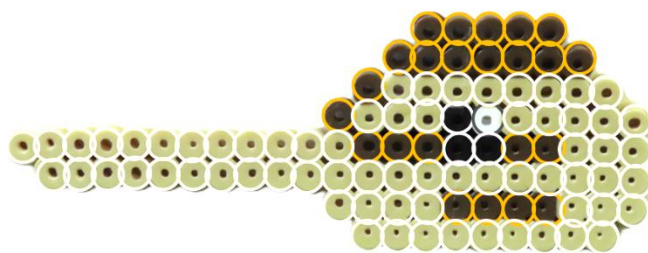
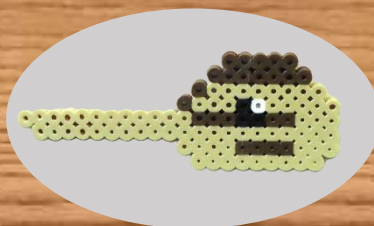
ウトナイ湖に春に渡ってくる

「オオジシギ」

をアイロンビーズで作ってみよう！

写真と同じところに、アイロンビーズを並べて作りましょう。

※アイロンビーズは、アイロンの熱で接着するビーズの総称です。並べて熱を加えることで様々なデザインを楽しめます。水で接着するアクアビーズでも作れます。



デザイン: 当センター獣医師 山田智子

公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



Facebook



X



